
我ら、『なんでも革命団』！！

sueko

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我ら、『なんでも革命団』！！

【Nコード】

N46030

【作者名】

sueko

【あらすじ】

運動神経が壊滅的にダメな上に成績が優秀でもない。

かといって不良の類かというと、そういうわけでもない。

基本的にめんどくさがり屋で「努力」というものと無縁。

何かが起きてもテキストにその場をしのぐ。

このまま行けばダメ人間まっしぐらなヨシアキ。

そんなヨシアキに唯一、特筆すべき点があるとすれば…人より多少、悪知恵が働くってことくらいか。

で、それだけの理由で『とある革命団の参謀役』に大抜擢されてしまっただから世の中よく分らん。

序章 夢と現実

この世の中に、子供の頃に思い描いた【将来の夢】を実際に叶えられる人間はどれくらいいるのだろうか。

非現実的な夢はともかくとして、純粹に憧れていた夢は大人に近付くにつれて理想と現実の間で儚く散ることも多いのではないだろうか。

幼いころの俺はウルトラマンが大好きだった。

なかでもウルトラマンレオの弟アストラがお気に入り、親が買ってくれたウルトラマンレオのビデオを何度も観た。

もちろん、当時の俺の将来の夢は「ウルトラマンになること」だった。

しかしだ…俺は運動神経が壊滅的な上に泣き虫だった。

近所に住んでる同い年のユースケとウルトラマンごっこをしてても、おふざけパンチや転倒などなど…あらゆることで泣いていた。

「カラータイマーの点滅する3分すらもちそうにない。」

幼いながらに「自分はウルトラマンにはなれない」と悟っていた。

小学2年の頃、国語の授業で【将来の夢】を題材に作文を書かされた。

同級生は大工や看護婦、パイロットなど思い思いに鉛筆を進ませていたが俺は何になりたいか思いつかなかった。

いろいろ悩んだ挙句、「すし屋になりたい」という作文を書いた。その場しのぎに後ろの席のカツヒコくんの夢をもろにパクッただけである。

それでも他人の夢をパクった上で、夢への想いを原稿用紙2枚分も綴ったのだから我ながら大したものである。

小学校も6年生となると、ある程度は現実を分かってくるわけだ。俺の【将来の夢】も『すし屋』から『調理師希望』と明確なものにグレードアップしていた。

しかも、親の手伝いで行っていた晩御飯作りで家族からの料理の評価も良いものだった。

身内の評価ごときで有頂天になっていた俺は「じゃあ、調理師になつてやろう」とテキトーに思っていた。

ちなみにカツヒコくんの夢は『すし屋』から『野球選手』になっていた。世の中、そんなもんだ。

中学卒業と同時に待ち受ける高校受験。

「高校選びが将来の進路に影響する」と教師に脅された俺は進学先に悩んでいた。

俺の学力と家の財力では調理科のある県内の私立高校受験は難しかったからだ。

それ以前に、『調理師』になりたいという決意は薄れていた。

冷静に考えると俺は人のために美味しい料理を作ることに喜びなどを見出せなかった。

基本的にめんどくさがり屋で料理自体作るのも食べるのもそれほど好きじゃなかったしね。

もう少し早めに気付くべきだった最大の失態である。

と、後悔しても高校受験は待つてはくれない。

結局、俺は【将来の夢】という名の明確な進路希望は後回しにして、

「普通の高校の普通科に入学して普通に過ごそう。そこでの3年間

で将来の展望も見えてくるだろう。」

などと呑気に地元の普通高校普通科を受験することにした。
仲の良い友達グループがそこを受験したというのも理由の一つだ。
まあ、ちゃんと合格して見事入学したから良かったものの、その
場しのぎのテキトー人生計画もここまでくると救い様がない。

で、長々と【将来の夢】だなんだを語った挙句、今の俺はなにを
しているかと言つと……。

『とある革命団の参謀役』である。

まったく……どこで進路選択間違えたかな……。心当たりが多すぎて
嫌になっちゃうよ。

序章「夢と現実」（後書き）

小説を書くこと自体が今回初めてなので、正真正銘『処女作』です。文法や誤字脱字、一応は注意しているのですが至らぬ部分多々あると思います。また回りくどい表現方法など、改善すべき点もあるかと思っていますのでご指摘やご感想をどんどん言っていただけると大変ありがたいです。

ぜひ、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4603o/>

我ら、『なんでも革命団』！！

2010年10月23日05時05分発行